

住民参加と協働で進めるまちづくり

広陵町自治基本条例推進会議 活動内容

推進会議の役割と、今年度（全4回）の動き

～ 会議の歩みと成果を具体的に紹介 ～

自治基本条例とは／推進会議の役割

なぜ条例があり、なぜ会議を開くのか



自治基本条例の意義

- ✓ 町の“**基本ルール**”として
参画と協働を定める
- ✓ 町政運営と地域活動のもっとも大事な土台

! 「あるだけ」では意味がない！
住民・職員に使われてこそ効力を発揮

推進会議の3つの役割

- 1 整合性の点検**
他の条例や規則が、基本条例の考え方と合っているか確認する
- 2 運用の検証・評価・改善**
条例が実際に使われているか確認し、改善につなげる
- 3 その他 必要な検討**
町長が必要と認める事項について議論する

推進会議の構成

どんな人たちが会議に参加しているか

委員定数：18人以内（公募・推薦・学識者）

住民側委員 （中心メンバー）

現場を知る立場の方々

PTA役員
自治会長
民生児童委員
まちづくり協議会関係者 など

町（行政・事務局）

説明・質疑応答・運用担当

町長
部長・課長
担当課職員

※資料作成や進行管理も担当

オブザーバー

町議会議員

会議の様子を見守り、議会としての関心事項を共有する立場

運営支援

外部支援者

中立的な立場で会議運営を補助し、議論を整理する

傍聴者

一般参加者

会議は公開されており、誰でも傍聴が可能

今年度の位置づけ（背景とテーマ）

これまでの経過と、いま取り組んでいること

🕒 これまでの経過

令和3年6月
条例施行
推進会議を設置し、継続的に開催

昨年度
運用状況の集中議論

- ✓ 活用されているか？
- ✓ 他のルールと整合しているか？
→ 提言書を提出

周知のための パンフレットの作成



今年度の位置づけ（背景とテーマ）

これまでの経過と、いま取り組んでいること

🕒 これまでの経過

- 令和3年6月
条例施行
推進会議を設置し、継続的に開催

- **昨年度**
運用状況の集中議論

- ✓ 活用されているか？
- ✓ 他のルールと整合しているか？
→ [提言書を提出](#)

🚩 今年度のテーマ

- 🔍 **全体の再点検**
施行から時間が経ち、実態に即して改めて見直す
- 📣 **「伝わる形づくり」**
ただあるだけでなく、住民に届く形へ
特に「**逐条解説書**」の改善

会議開催

全4回(第10回～第13回)

第1回：条例の全体見直し（再点検）スタート

第10回会議運用実態を確かめ、課題を洗い出す

議題の柱

- 1 参画と協働の実績
広陵町と各団体の連携状況
- 2 まちづくり推進計画
令和6年度の進捗確認
- 3 運用の再点検
改正に向けた改善提案の抽出

会議で出た“困りごと”と“改善のヒント”



A. 条例を「知ってもらおう」工夫

委員の声

「出前講座は分かりやすかった」「低学年にも伝わるようアニメ的な工夫を」



B. 地域メールの情報発信

課題

「登録者数が見えない」「回覧板との併用段階」。実態が伝わる数字の共有が必要。



C. 若い世代の声が入りにくい？

問題提起

コミュニティカルテのヒアリングが役員中心になりがち。「PTA活用などで幅広い声を」

第1回のまとめ（雰囲気）



「改正するか」より先に、
「伝わっていない／使われていない部分をどう埋めるか」

第2回：逐条解説書を直して“伝わる形”へ

第11回会議 条文改正よりも「解説の改善」に注力し、分かりやすさを追求

≡ 会議の進め方

📖 事務局説明＋意見出し

ワークシートを用い、前文～第6章まで順に確認。章・条文ごとに意見を出し合う形式。

議論のシフト

条文そのものをいじるよりも、
「逐条解説の書き方を直す」
提案が中心に。

🗣️ 現場からの声（地域のリアル）

切実な悩み

「若い人が地域行事に無関心で参加しない」

→ 条例を細かく書いても自分ごとにならない。分かりやすさが最優先。

会長からの整理

「条例は悩みを直接解決する道具というより、土台」

→ 活動の意義を下支えするものとして役割を再確認。

✔️ 第2回で確認された方針

1 条文の大改正より、解説の充実を優先する

難しい言葉を変えるだけでなく、補足説明でカバーする。

2 具体例を増やして伝わる形にする

ただし、例示が解釈を縛りすぎないようにバランスに注意。

3 「参加の入口（ゼロ段階）」も含める

意識高い活動だけでなく、住民が動き出しやすい説明を加える。

第3回：理解は深化、伝え方が課題

第12回会議 検証作業の継続と具体的改善案の議論

☑ 検証の継続

- 1 ~第6章の検証
2回目の詳細確認を実施
- 2 第7章～第11章
後半部分の1回目検証
- 3 方向性の共有
条文改正よりも「解説書の補強」で分かりやすさを向上させる

👥 会議の雰囲気と改善案



理解深化と「難しさ」の共存

「回を重ねて勉強になった」という声の一方で、「住民や子どもにどう伝えるかが課題」という意識が強く残る。



実務に直結する具体的提案

「公益通報の窓口が分かりにくいので明記すべき」
「条文と解説書の例示のズレを整える」といった運用の実効性を高める意見。



教育・次世代への視点

地方分権などの教育不足にも触れ、「解説書は中学生でも読めるレベルを目指したい」との方向性。

第3回のまとめ



条文を変えるだけでなく、補助資料等を充実させ
「読む人に寄り添う資料」を整える方向へ

第4回：最終案確定／パブコメ・シンポ実施決定

第13回会議 改正案と解説書を固め、住民との対話へ

本会議での決定事項

✓ 逐条解説書（最終案） 方針通り了承

表現修正・運用欄を充実

✓ 条例改正案 議会上程へ

異議なしで決定

✓ パブコメ+シンポ 実施決定

「解説書」もセットで意見聴取

委員の声・会議の空気感

👍 改善への手応え

「解説書が分かりやすくなった」「QRコードでアクセスしやすい」など、「伝わる形」への改善を評価する声が多数。

🎯 これからは「周知が勝負」

「作って終わりではない」。パブコメは「若者が集まる場所」で閲覧できるようにし、「IT活用」で提出しやすくすべき。

🏠 運用と次世代への視点

イベント等に「条例のクレジット表示」をして身近に。「学校との連携」で将来の担い手づくりを。

第4回のまとめ

🚩 条文と解説書の中身は固まった。
次は、住民のみなさんに「どう届けるか」「どう聞かか」が焦点。

今年度の成果

推進会議が果たした役割と到達点



条例改正案の確定

運用実態に合わせ、最終案を議会上程へ



逐条解説書的大幅改善

「伝わる形」を目指し、表現と運用欄を充実



対話の場づくり決定

パブリックコメント実施とシンポジウム開催へ

★ 最重要ポイント

“書く”だけでなく
“使われる” 条例へ

形式的な整備にとどまらず、
生活と地域活動につながる運用を
徹底して議論しました。

これからの展望

多様な声を集め、回答・反映へつなぐために

Action

一緒に考えてほしい 3つの問い

1. 私たちに何ができるか

2. 参画・協働を進めるためには何が必要か

ぜひ、率直な声を届けてください



パブコメで意見をお寄せください

QRコード

オンライン

窓口



学び・対話の場づくりにご協力を

学校や地域での勉強会、出前講座の活用

その声が、
条例を「町の基本ルール」として
機能させる力になります。